



書評

[評者]

市原 真

札幌厚生病院病理診断科主任部長

まるとアトピー

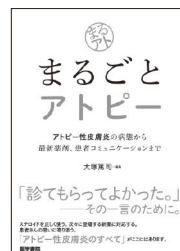
アトピー性皮膚炎の病態から最新薬剤、
患者コミュニケーションまで

大塚 篤司 編

●A5 頁344 2022年10月

定価：5,280円(本体4,800円+税10%)

[ISBN978-4-260-04978-8] 医学書院刊



注：この書評にはファイナルファンタジーX-2の重大なネタバレが含まれます。

『まるとアトピー』を読んだ。読後感はい「全クリ」に近い。単にボスを倒してエンディングを見たときの感動に留まらず、サブエピソード、やりこみ要素、追加DLCなどを含め、ゲームソフトの全コンテンツをコンプリートしたときのそれだ。ファイナルファンタジーX-2(FFX-2)に例えると、ティエダが生き返るトゥルーエンディングまで見たときの気持ち。われながらわかりやすい喩えだ。

本書はきわめて医学書院らしい本である。網羅性が相当高い。アトピーという大ジャンルの隅から隅まで触れられていることに感心する。ちなみに皆さまは、「アトピーの教科書」と聞いて、何が書いてあると予想されますか？ぱっと思いつくのは、「診断」「治療」「基礎医学」あたりですよ。本書には……皮膚の正常組織構造、アトピー研究の歴史、小児アトピーの位置付けに始まり、アトピーの鑑別診断、アトピー基礎医学から病態を解明し、標的分子をハイライトし、次々とアップデートされる最新薬剤の薬理と使用のコツを流れるように説明し、UVB、漢方(秀逸!)、ジェネリック(基材に関する注意点は仰天したし納得)までカバー。プロアクティブ療法、タイトコントロール、患者や家族に対する生活指導や医療行動経済学、SNSにおける医療情報の扱い方まで。本当に高い分解能で総ざらい。心意気は豪胆、仕掛けは繊細である。

これほどまでに「網羅型」の教科書であり

ながら、ブックデザインが明るくてフォントが優しい。行間が詰まりすぎておらずイラストの挿入頻度も的確。成書が陥りがちな硬さが緩和されている。「網羅してますが、通読できますよ」。こういうところほんと巧い。データが新しいのもいいし、古典的なエビデンスを歴史込みで語っているところも好印象だ。あと、著者陣の日本語が総じて達者。「おつか先生」のつぶやきも効果的である。

本書が想定する対象は誰だろう？大学でアトピー研究をしている人たちが読めば、基礎研究が臨床でどのように活用されているのかを実感するのに役に立つ。しかしメインターゲットは、「人生のある時期に大学にコミットしたけれど、今は現場でバリバリやっていて、患者との関係構築に心を砕いており外来満足度も高いと自負している、しかしぶっちゃけMR以外の経路で薬剤情報やエビデンスをアップデートするヒマがなくなっていることも事実で、心のどこかでは『昔取った杵柄』でやってる気がして少し心配、たまにエムスリーやケアネットの動画を見て、稀にキー論文も読んで一応勉強している、そんな自分に引け目がないわけじゃないけど、でも精一杯やってるヨ」というようなリアルワールドの医者であろう。きっとものすごく刺さると思う。FFX-2にも言えることだけど、ゲーム廃人じゃなくても、アルティマニアを買ってコンプリートしたくなってゲームの広さが味わえるよね。またわかりやすい喩えを使っちゃった。